道徳判断の発達に影響を及ぼす社会的相互作用の検討 ——Role-Taking Opportunity の観点からの分析¹——

東京大学

山岸 明子 無藤 隆

THE RELATIONSHIP BETWEEN MORAL DEVELOPMENT AND ROLE-TAKING OPPORTUNITIES

AKIKO YAMAGISHI TAKASHI MUTO

University of Tokyo

The relationship between moral development and role-taking opportunities (RTO) in adolescence was investigated. Subjects were classified into Kohlberg's Stage 3, 4 or 5 by Defining Issues Test. From the subjects' questionnaire responses to five social interaction situations, i. e., interpersonal interaction, group activity, voluntary social activity, contact with mass media, and contact with books three RTO scores were computed, which were assumed to correspond to the three stages. The results showed (a) that the higher the subject's stage, the more post participation in social interactions and (b) that a subject in a given stage had often participated in activities which offered many opportunities of role-taking needed in his stage.

道徳判断の発達については、Kohlberg 理論に基づく研究が、近年数多くなされるようになってきた（詳しくは内藤，1977；山岸，1977）。道徳判断の発達を促す要因については、主として（a）基礎、前提となる能力（認知能力、役割取得能力）の発達、（b）認知的葛藤の経験、について研究が行なわれている。一方、社会的要因との関連、発達を促す要因は何かという観点からの研究は少ない。

Kohlberg は、社会的要因が直接的に道徳判断の発達に影響することを否定しており（Kohlberg, 1964；Turiel, 1976 の研究は、それを実証している）、それに対し社会的要因を軽視しているとの批判がしばしばなされている（Bereiter, 1968；Garbanino & Bronfenbrenner, 1976；波多野・無藤，1974）。

しかし、Kohlberg (1969) は、“発達とは、個人と社会的環境との相互作用によりひき起こされる個人内の不均衡が均衡化される過程である”とし、認知的葛藤をひき起こすことを通じて発達を促すものとして、社会的相互作用を重視しているのである。更に、“道徳判断の発達は役割取得のモードの再構成化の過程”と考え、社会的環境や社会的相互作用のあり方を“役割取得の機会：Role-Taking Opportunity（以下、RTO と略す）”という概念からとらえることを提唱している。

Piaget (1932) は、仲間との相互作用が道徳判断の発達を促すとしたが、Kohlberg は、あらゆる社会的相互作用が役割取得の機会の提供という形で、発達に影響すると考えている。性、家族、階級、国家などの社会的要因は、RTO を通じて発達に影響すると考えるのである。

役割取得はステージの定義の中核的概念であり、RTO は発達を促進させる社会的要因を分析する際の中核的概念であると言える。

しかし、Kohlberg の言う RTO は具体性に欠け、相互作用の一般的な質を RTO で言い換えただけのように思われる。構想を述べるだけにとどまらず、具体的、実証的に社会的環境を RTO で分析していく必要がある。

RTO に関してなされた研究では、家庭要因に関する Holstein (1968) の研究、仲間集団への社会的参加をみた Keasey (1971) の研究がある。前者は、親が討論に参加するように励ます程度、一緒に遊ぶ量などと発達レベルとの相関、後者は、所属しているクラブ数、人気、リーダーシップと発達レベルとの相関を検討したものである。RTO という観点からの研究ではあるが、変数のとり方が大雑把であり、Kohlberg の言う役割取得の一面しか扱っていないと思われる。

“相手の立場、役割をとる”という役割取得の概念は人により、異なった現象に使われていることが多いと、

¹ 本研究にあたり、東京大学新聞研究所内研究費の援助を受けた。

Shantz (1975) が指摘しているが, Kohlberg の言う役割取得は, 彼自身のステージの定義と密接な関連を持ち一般的に言われる役割取得とは異なる面がある複雑な概念である。つまり, 単に相手の視点をとることにとどまらず, 一般的他者, 社会の視点, 更に人類全体の視点をとるという抽象的な役割取得まで含んでいると思われる。各ステージで必要とされる役割取得能力の違いは, とられる役割の性質はどのようなものか, どのレベルの他者の視点をとれるかによるのであり, 普通に言われる役割取得能力 (主として次に述べる RT 3 のことが多いと思われる) の増大とは異なるのである。

そこで本研究では, 各ステージで必要とされる役割取得を明確化し, 役割取得を RT 3 (ステージ 3 で必要とされる役割取得), RT 4 (ステージ 4 で必要), RT 5 (ステージ 5 で必要) に分けて考察する。(本研究では青年期のものを対象とするのでステージ 3 以上を問題とする。) 各ステージの概要及び各ステージで必要とされる役割取得の定義は, 次の通り。(なお, ステージ 5 は, Kohlberg のステージ 5 と 6 をあわせた日本用のものである。)

ステージ 3 —— よい子に志向する (他者からの期待に従い, よい対人関係の維持をめざす)。

ステージ 4 —— 義務を果たし, 社会秩序や法を維持することに志向する。

ステージ 5 —— 自己及び他者の人格の尊厳を守り, 理性的に決定された自己の原則を維持することに志向する。

RT 3 —— 具体的な相手の立場, 視点を, 自分の立場と関連させられる。

RT 4 —— 抽象的な一般的他者や社会の視点をとれる。

RT 5 —— 既存の社会を越える視点, 論理的に考えられる限りのあらゆる視点をとれる。

具体的な社会相互作用については, RT 3, RT 4, RT 5 をとる機会が多いと思われる日常的場面として, (1) 具体的直接的な他者との交流, (2) 所属する集団の活動への参加, (3) 自発的な集団的社会的活動への参加, 更に, 社会的相互作用に直接的でなく間接的に関与するものとして, (4) マスコミとの接触, (5) 書物との接触をとりあげる。そしてそれぞれの場面につき, 接触度, 接触の内容, 接触の深さを考慮することにより, RTO を量的質的にとらえる。(なお, 本研究では, 社会的相互作用それ自体でなく, 質問紙に対する反応を通しての相互作用の認知を扱う。)

以上のように, 本研究の目的は, Kohlberg の言う役割取得の概念を明確化し, そのような役割をとる機会がどのくらい含まれているかという観点から, 広範囲な社会的相互作用と道徳判断の発達レベルとの関連を見ることである。つまり, 各ステージにある者の社会的相互作用, RTO がどのようなものであるのか, ステージ 3, 4, 5 の

グループの判別がそれらの変数でどのくらい可能かを検討する。そして, 道徳的発達を促進する社会的経験についての示唆を得, 更に RTO の概念の有効性を検討することを目的とする。

方 法^{2,3}

調 査 内 容

次の 3 つの質問紙調査を実施した。

道徳判断 Kohlberg の理論に基づき, Rest, Cooper, Codor, Masanz, & Anderson (1974) の DIT を参考に作成された道徳判断の発達のレベルを測る選択式の質問紙で, 道徳的葛藤の解決に際し, どのような観点を重要な問題と考えて対処するか, を選択させる。6 つの例話から成り, それぞれ各ステージの志向に対応した 11—12 の観点が配されている。(ステージ 3, 4, 5 が各 3 項目, 2, 4^{1/2} が各 1 項目が, 平均的な数) 1 番重要から 4 番目に重要までを選択させ, 選ばれた項目のステージを, 重要さに応じて重みづけたものから発達レベルを算出する。(詳細については, 改めて発表する予定である。)

本研究では, 各ステージにある者の RTO がどのようなかを検討するのが目的なので, Total D (上記の各例話からの発達レベルの得点を合計し平均したもの) でなく, どのステージを特に重要と考えるかを示す DP 値 (各例話で重要と考えた項目において, 各ステージが示す割合を, 重みを考慮してパーセントにしたもの) からステージを決定した。

社会的相互作用 (RTO) 以下の 5 場面, 37 項目から成る質問紙で, 各項目それぞれについて 3 種類の RTO がどのくらい含まれるか, あらかじめ 4 段階で得点化した (Table 3)。なお, この得点は, 筆者 2 人が協議して決定したものである。

(1) 他者との交流

他者と行動を共にしたり, 話し討論することは, 基本的に相手の立場や気持ち, 考えを考慮する機会を与えられと考える。しかしどのような RTO を, どのくらい与えるかは, 接触の内容や深さ, その頻度などにより異なると思われる。

そこで, 接触の内容を ① から ⑧ の 8 つに分け, ④ 以上については接触の深さとして, それぞれ b 話す (おしゃべり程度) c 意見をまじえて話し合うの 2 項目に分ける。そして重要な他者と思われる 7 名 (父親, 母親, 兄弟, 親友, 友人, 異性の友, 先生) それぞれに 13 項目を配し, 接触の頻度 (4. よくある—1. 全くない) を解答させた。得点は項目別に 7 名の得点を合計したもの

² 計算は, 東京大学大型計算機センターの SPSS によった。

³ 調査に御協力下さった東京大学附属高校の梅田先生 永井先生はじめ諸先生方, 被験者の皆様, 感謝する。

を使った。

(2) 集団としての活動

集団としての活動、集団の決定への参加は、相手の役割だけでなく、多くの人の役割をとることを必要とし、より広い視野からの第三者的視点が必要と考えられる。そしてその必要性は、集団における責任の度合により異なり（リーダーは他の者に比べ、多くの者が満足する決定をより切実に求めるだろう）、また本人にとってその活動が持つ意味、重要さにより異なるものと思われる。

そこで、⑭ ホームルーム活動、⑮ 生徒会の運営について a 活動上の責任の程度（4段階——4. 集団全体をまとめる役割, 3. 2. 一部をまとめる役割, 1. 集団の一員）b その活動への参加の自発性、積極性の程度（4段階）c その活動の重要性（4段階）を尋ねた。得点は $a \times (b+c)$ 。なお、現在在学する学校の一段階前（大学生なら高校時代）での活動も含めて解答させた。

(3) 自発的活動

(2) がいやおうなしに強制的に参加させられている集団活動であるのに対し、自発的に参加する集団活動である。従って参加の自発性、活動の重要性はある程度高いと思われ、活動の頻度により、活動へのかかわり方が予想されるので、ここでは各活動への参加の頻度（4. よくやっている—1. 全くやったことはない）だけを解答させた。

⑩ 政治的活動、⑪ 社会的活動（住民運動、セツルメントなど）⑫ ボランティア活動、⑬ クラブ活動（文科系）は、RT 4, RT 5 をとる機会が多いと考えられる活動である。（活動に参加することにより、社会全体の視点や、既成の社会を越える視点に接することが多いと思われる。）⑭ アルバイトは、RTO 4 が高いと仮定された。クラブ活動 ⑮ ⑯ は、それぞれ具体的なクラブ名を考慮して得点化した。（なおここで考える RTO は、その活動を通して得る他者との交流を含まず——重要な場合は、(1) に現われると思われる——その活動自体に内在する RTO である。）

(4) マスコミとの接触

(1) (2) (3) が直接的な相互作用であるのに対し、(4) (5) は間接的なもので、一般に社会的相互作用とされることは少なく、役割取得の研究で考慮されてきたことはないが、特に青年期においては、直接的具体的な相互作用と同様に重要なものと思われる。

(4) では、a 新聞、b テレビ、ラジオに関し、RTO を含むと思われる 9 項目（⑭—⑳）について、接触度（5段階——a 5. ていねいによく読む、4. ざっとだがよく読む、3. 時々読む、2. たまに読む、1. 全く読まない。b 5. 熱心によく見る、4. 漫然とだがよく見る、3. —1. a に準ずる）を解答させた。

(5) 書物との接触

漫画を除く本との接触については、㉓ 読書量（平均して 1 か月に読む冊数——5 段階）。㉔ から ㉗（㉔ ㉕ は、専門書、入門書）については、a 接触度（4. よく読む—1. 読まない）を尋ねた。㉘ ㉙ については、b 接触の深さ（㉘ 感銘を受けたことがあるか、㉙ 読んで考えさせられることがあるか——各 3 段階）も解答させた。得点は ㉘ ㉙ は $a \times b$ 、㉚ ㉛ は a^2 を用いた。

なお ㉔ 小説、随筆は様々なものがあり、RTO を一律に決められないので、愛読書、または好きな作家を 3 つ（3 人）まであげてもらい、個々に得点化した。これは文学的価値とは別個の評定で、その作品を読むことにより、3 つの RT をとるきっかけがどのくらい与えられるかの評定である。1) 一般的基準を設け、更に 2) 軽いもの（SF、ミステリー、軽いエッセイ）3) 耽美的審美的な小説、4) 社会的問題を扱う小説、5) 哲学的問題または高度な現実批判を含むものの RTO 得点を決め、記述されたものの組合せから決定した。

語彙テスト 道徳判断、社会的相互作用の、両者に何らかの関連があっても、それは言語能力に代表される一般能力が共通して関与しているためであるという可能性があるので、語彙力をテストした（芝、1977）。これは、日常重要と思われる語の意味を 5 肢から選択させるもので、高校生には、S1 版、大学生には S2 版を用いた。それぞれ 60 項目から成るが、高校生には時間の都合で 40 項目のみ実施した。得点は、共通尺度上の値に変換された。

被験者

1. 国立大学附属高校 2 年生 110 名
 2. 私立大学農・工学部 3, 4 年生 146 名
- 計 256 名

調査時期

1. 高校 1978 年 6 月
2. 大学 1978 年 1 月

結果と考察

1. 被験者のグループ分け

まず、道徳判断のステージによる被験者の分類を行った。

本研究では、各ステージ毎の差を問題とするので、混合型（例えば、ステージ 3 と 4 の観点を共に重要と考える）は対象として適当でない。しかし純粋型（例えば、主としてステージ 3 の観点を重要と考える）だけを選別すると、ステージ 3 に該当する者がきわめて少なく、4 も少ない。（それぞれ 256 名中 17 名（内大学生 5 名）35 名（大学生 12 名））。特に大学生では全体の 3%、8% にすぎず、他のバイアスがある可能性が高く、分析対象とするのは適当でないと思われる。

そこで、判別の精度がいくらか落ちることが予想され

TABLE 1
Number of subjects in each group

	Stage 3	Stage 4	Stage 5	Total
High school students	16 (13.9)	37 (32.2)	26 (22.6)	79 (68.7) [†]
College students	15 (10.3)	21 (14.4)	62 (42.5)	98 (67.1)
Total	31 (10.3)	58 (22.2)	88 (33.7)	177 (67.8)

† () : Percentage

るが、混合型のうち、優位性を持つ者は、優位な方のステージに分類することにした。つまり、3 (4) は、ステージ 3, 4 (3) はステージ 4 にグループ分けし、3-4 は除外した⁴、その結果、各ステージに該当する被験者は Table 1 のようになった。本研究では、これらの被験者を分析対象とする。

2. RTO, 道徳判断と語彙テストの関係

道徳判断の発達レベルと語彙テストの間には相関があることが予想されたが、Total D との相関は、.101 と低かった。一方 DP 値とは、DP 3: -.118, DP 4: -.123, DP 5: .190 といくらか相関が見られたが、質問紙の妥当性をそこなう程のものではないので、RTO, 道徳判断の関係から特にその分散を除く (partial out) ことなく、以下検討する。

3. 道徳判断の 3 グループと社会的相互作用との関連

道徳判断の 3 グループに属する者は、社会的相互作用のどのような経験において異なるものかを明らかにするために、社会的相互作用の全変数について、3 グループ毎に平均値を算出し、差の検定を行なった (Table 2)。

ほぼ全ての項目で、ステージ 3 より 4、ステージ 4 より 5 の方が平均値が高く、道徳判断の発達レベルが高い者ほど、社会的相互作用の経験が多いことが示されている。

ステージ 3 と 4 で有意差があるものは少ないが、投書欄、ドキュメンタリー番組との接触は、ステージ 4 の方が有意に得点が高い。

ステージ 4 と 5 では、主として他者との交流 (特に世の中のできごと、進路、悩み) に関し、5 の方が得点が高い。また、小説や人文科学でも 5 の方が高いが、マスコミとの接触ではほとんど差がない。4 の方が高いものは、クラブの運営、生徒会、社会科学等で、集団活動に関しては、4 の得点の方が高いことが注目される。

ステージ 3 と 5 は、上の 2 つの変数をあわせたものとはほぼ一致している。

⁴ 具体的なグループ分けの基準については“青年期における道徳判断の発達測定のための質問紙の作成とその検討”として別に発表する予定である。

以上をまとめると、(1) ステージ 5 は、3, 4 と比べて、他者との交流 (特に様々な要因がからむ複雑な話題に関する対話) が多く、また、小説、人文科学などとの接触も多い。(2) 集団活動はステージ 4 の者の参加が多い。(3) マスコミとの接触に関しては、ステージ 3 の者が他と比べ、新聞の投書欄、テレビのドキュメンタリーとの接触が少ないが、他のものに関しては、ステージとの関連は見られない。(4) 自発的活動への参加は全体的に関連が薄い。

次に RTO 得点との関連から上記の結果を検討してみよう。

他者との交流では、RTO 5 を含む項目で 4 と 5, 3 と 5 の間に有意差が見られ、ステージ 5 の者は RT 5 の機会が多いことが示されている。RTO 4 が高い集団活動では、ステージ 4 の平均値が高く (⑩⑪ではステージ 5 より高い)、RTO 4 とステージ 4 の関連が示されている。自発的活動に関しては、本研究の被験者では参加が少ないせいもあり、RTO 得点との関連は明確ではない。

マスコミや書物との接触では、全体的に関連性は少ないが、RTO 4, RTO 5 が高い項目で、ステージ 3 と 4, 5 と 3 または 4 に差が見られている。一方 RTO 4 が高い社会的事柄に関するマスコミとの接触 (政治欄、経済欄、ニュース) では、RTO 得点との関連は明確ではない。社会的事象の報道のような固定的な視点に一方的にさらされる相互作用はステージとの関連が薄いといえる。又、社会科学との接触は、ステージ 4 の者で高く、仮説と異なる結果であった。社会の問題を扱う社会科学は、接し方によっては現状維持の観点を強化するのだろうか。接し方をより明確にとらえる必要があろう。

RTO 5 が特に高いわけではないが、様々な RTO を含む他者との深い接触、小説は、ステージ 5 への関与が予想より強かった。色々な視点を含み、それらが常に葛藤状況にあるような相互作用が高次の発達レベルに関与することが示唆されている。

以上の結果は、仮説を支持する方向のものと言える。つまり、RTO 4, RTO 5 を多く含む社会的相互作用は、それぞれステージ 4, 5 の者で経験が多く、そのような役割取得の機会にさらされることが道徳判断の発達に影響することが、示されている。また、(1) 具体的な人間に関連し、互いに葛藤する様々な視点を含む人間関係への参加 (他者との深い交流、投書欄、ドキュメンタリー、小説、人文科学など) がステージに関連する。(2) 社会全体の視点を提供するマスコミとの接触はステージとの関連が薄い。(3) グループ全体の視点をとらせる集団活動の運営はステージ 4 との関連が強く、4 から 5 への移行を妨げる可能性が示されている。

これらは、RTO を 3 種に分けることの有効性を示し

TABLE 2
Means and *t*-tests for 3 groups and RTO scores for all variables

	Mean (<i>SD</i>)			<i>t</i> -test			RTO-score		
	Stage 3	Stage 4	Stage 5	3 vs. 4	4 vs. 5	3 vs. 5	3	4	5
(1) interpersonal interaction									
a. behavior									
① meal & T. V.	11.55(3.81)	11.21(3.32)	11.80(3.50)				1	0	0
② going out	7.55(3.36)	8.48(3.39)	8.94(2.81)		*		1	0	0
③ play	7.58(3.88)	7.81(3.45)	8.61(2.92)				1	0	0
b. gossip									
④ events in everyday life	11.52(4.97)	12.05(4.09)	13.06(4.23)				2	1	0
⑤ events in society	9.00(4.43)	9.52(4.54)	11.34(4.03)	*	**		2	1	1
⑥ movie, T. V. & book	10.03(4.79)	10.47(3.96)	11.66(3.58)				2	1	0
⑦ course	9.58(5.23)	9.45(4.28)	11.45(4.43)	**	*		1	1	1
⑧ worries	6.16(3.98)	5.83(4.18)	7.89(3.46)	**	*		2	1	1
c. discussion									
⑨ events in everyday life	7.42(4.27)	8.43(4.05)	9.34(4.60)		*		3	1	1
⑩ events in society	6.00(3.71)	6.78(4.11)	8.43(4.42)	*	**		2	3	2
⑪ movie, T. V. & book	6.61(3.53)	7.38(3.88)	8.39(3.92)		*		3	1	1
⑫ course	6.90(5.28)	7.34(3.95)	9.70(4.45)	**	**		2	3	2
⑬ worries	4.13(3.48)	5.07(3.82)	6.74(4.16)	*	**		3	2	2
(2) group activity									
⑭ home room activity	8.13(6.38)	10.05(5.76)	10.89(6.04)		*		1	2	1
⑮ student council	8.74(8.10)	11.76(8.65)	9.06(8.07)				1	3	2
⑯ management of school festival	9.90(6.84)	11.45(7.34)	11.74(7.10)				1	3	2
⑰ management of hobby group	12.16(7.34)	15.03(7.68)	12.25(8.01)	*			1	3	1
(3) voluntary social activity									
⑱ political activity	0.06(0.25)	0.03(0.18)	0.11(0.41)				1	3	3
⑲ social activity	0.06(0.25)	0.05(0.22)	0.15(0.47)				2	2	3
⑳ voluntary activity	0.29(0.53)	0.26(0.58)	0.49(0.84)				3	2	2
㉑ part-time job	1.19(0.95)	1.33(1.18)	1.68(1.08)		*		1	2	0
㉒ hobby group (literary)	0.35(0.95)	0.26(0.81)	0.22(0.72)						
㉓ hobby group (other)	2.26(1.18)	2.38(1.06)	2.18(1.03)						
(4) contact with mass media									
a. newspaper									
㉔ political column	1.87(0.99)	1.86(1.12)	2.13(1.00)				1	3	2
㉕ economic column	1.45(0.96)	1.60(1.23)	1.61(1.06)				0	2	0
㉖ contributors' column	1.58(1.12)	2.28(1.24)	2.41(1.18)	*	**		2	2	2
㉗ domestic column	1.61(1.26)	1.95(1.37)	2.01(1.12)				2	1	1
㉘ social column	2.42(1.15)	2.76(0.96)	2.74(0.93)				2	1	1
b. T. V. & radio									
㉙ news	2.61(0.84)	2.88(0.96)	2.86(0.99)				1	3	1
㉚ documentary	2.13(0.92)	2.74(1.10)	2.67(1.12)	**	*		1	2	2
㉛ drama	2.94(1.15)	2.94(1.12)	3.22(0.88)				3	1	1
㉜ disk jockey	1.94(1.18)	2.09(1.27)	2.07(1.25)				1	0	0

	Mean (SD)			t-test			RTO-score		
	Stage 3	Stage 4	Stage 5	3 vs. 4	4 vs. 5	3 vs. 5	3	4	5
(5) contact with book									
③③ quantity of reading	2.90(1.08)	2.69(0.94)	2.74(0.84)				1	1	1
③④ novel & essay	3.87(2.36)	4.22(2.67)	5.31(2.74)	*	*		3	1	2
③⑤ critique	1.68(1.85)	2.19(2.63)	2.77(2.73)			*	1	2	3
③⑥ social science	1.58(2.42)	2.09(2.90)	1.59(2.10)				1	3	3
③⑦ cultural science	1.16(1.85)	1.34(2.14)	2.20(2.72)	*	*		3	1	3

* $p < .05$, ** $p < .01$

TABLE 3
Standardized discriminant function coefficients

	Func 1**	Func 2*	Number included
① meal & T. V.**	-.148	-.425	14
② going out**	-.101	.463	15
⑦ worries (gossip)**	.051	-1.055	17
⑫ course (discussion)**	.353	-.133	1
⑬ worries (discussion)**	.309	1.072	16
⑯ school festival**	.309	-.020	12
⑰ management of hobby group**	-.364	.295	3
⑳ part-time job**	.245	.234	11
㉑ hobby group (other)**	-.249	.086	18
㉒ political column**	.462	-.367	8
㉓ economic column**	-.454	.106	9
㉔ contributors' column**	.182	.436	2
㉕ social column**	-.262	.070	10
㉖ documentary**	.018	.329	5
㉗ quantity of reading**	.164	-.270	13
㉘ novel & essay**	.285	-.104	4
㉙ social science**	-.387	.120	6
㉚ cultural science**	.365	-.102	7

* $p < .05$, ** $p < .01$

ているが、一方道徳判断の発達に関与するものは単に役割取得の機会にさらされるということだけでなく、それらの視点間の葛藤を経験するという主体的認知的経験であることが示唆されている。

4. 判別分析

社会的相互作用の経験が道徳判断の発達と関連していることが明らかになったが、それらの変数で道徳判断の発達レベルを予測することがどの程度可能かを検討するために、社会的相互作用の全変数を独立変数とし、ステージ 3, 4, 5 のグループを判別する判別分析を行なった (Table 3, Table 4, Table 5)。

TABLE 4
Centroids of groups in reduced space

	Func 1	Func 2
3	-.448	-.794
4	-.525	.394
5	.504	.021

TABLE 5
Prediction results () : %

Actual group	No. of cases	Predicted group membership		
		Group 3	Group 4	Group 5
Group 3	31	21 (67.7)†	5 (16.1)	5 (16.1)
Group 4	58	9 (15.5)	36 (62.1)†	13 (22.4)
Group 5	88	21 (23.9)	16 (18.2)	51 (58.0)†
Ungrouped cases	79	22 (27.8)	24 (30.4)	33 (41.8)

† Percentage of "grouped" cases correctly classified : 61.02%.

ステージ 3, 4 に対し 5 を判別する Function 1 に関しては、政治欄、人文科学、進路、悩みについての話し合い、小説が 5 の方向に寄与し、経済欄、社会科学、文化祭の運営が 3, 4 の方向に寄与している。また、主としてステージ 3 に対して 4 を判別する Function 2 に関しては、悩みについての話し合い、外出、投書欄、ドキュメンタリーが 4 の方向に、悩みについての軽い対話、食事やテレビ、政治欄が 3 の方向に寄与している。

† 検定の結果とほぼ似ているが、平均値の結果ではあらわれなかったものとして“政治欄”に対し“経済欄”が 5 対 3, 4 で反対方向に、また“悩みについての話し合い”に対し“軽い対話”、“外出”に対し“食事やテレビ”が 4 対 3 で反対方向に寄与しているのが注目され

TABLE 6

Means and *t*-tests of RTO scores for three groups

	Mean (<i>SD</i>)			Mean (<i>SD</i>)		
	Stage 3	Stage 4	Stage 5	3 vs. 4	4 vs. 5	3 vs. 5
RTO3	4.42 (1.15)	4.89 (1.12)	5.40 (1.59)	<i>N. S.</i>	$p < .05$	$p < .01$
RTO4	4.36 (1.25)	4.97 (1.30)	5.31 (1.59)	$p < .05$	<i>N. S.</i>	$p < .01$
RTO5	4.28 (1.93)	4.73 (2.08)	5.69 (3.23)	<i>N. S.</i>	$p < .05$	$p < .01$

る。政治欄、経済欄は共に社会全体の視点を提供するものだが、両者の反対方向への寄与は、政治欄が RTO 5 を含むのに対し、経済欄は RTO 4 のみしか含まないという RTO 得点と一致する結果である。また、他者との交流での反対の寄与は、類似した接触様式でも接触の深さによりステージとの関連が全く異なることを示している。(共に外出するという行動は、共に食事をするのより接触の仕方が深いものと思われる。)

これらの変数でグループの予測を行なうと、正しくグループ分けされるものは、61.02% であった。語彙テストの成績を変数につけ加えると、判別分析の予測率は、ステージ 3: 58.1%, ステージ 4: 69.0%, ステージ 5: 70.5%, 全体: 67.8% で、ステージ 3 の予測が落ち、5 の予測がかなりよくなっている。ステージ 3 は、社会的相互作用のあり方からの予測が 67.7% とよいが、ステージ 5 では予測率は高くなく、語彙テストのような一般的能力がある程度関与していることが示されている。

全体としてそれ程高い予測率ではないが、混合型も含めてグループ分けしたこと、及びそもそも理論的に関係が間接的であることを考慮すれば、社会的相互作用のあり方から道徳判断の発達レベルをかなり予測できると言えよう。

5. 3 グループと RTO 総得点との関連

道徳判断の発達の各ステージで必要とされる RT 能力は、それぞれ異なるという仮説をより明白に検討するために、3つの RTO 総得点(社会的相互作用の全変数それぞれに仮定された RTO 3, RTO 4, RTO 5 の得点(Table 2)を場面別に加え、それらを標準化して合計した得点)について、道徳判断の 3 グループ毎に平均値の差の検定を行なった (Table 6)。

どの RTO もステージが高いほど、高い傾向が見られる。ステージ 3 と 4 で有意差があるのは RTO 4 で RTO 4 の機会を持つことがステージ 3 から 4 への移行を促すという仮説が支持されている。ステージ 4 と 5 では RTO 3, RTO 5 がステージ 5 で有意に高く、RTO 4 に関しては有意差は見られず、ステージ 3 と 5 では、全

に有意差が見られている。

ステージが高いほどさまざまな RTO が多いことが示されているが、ステージ 3 から 4 への移行には RTO 4 が特に関与し、ステージ 4 から 5 への移行には RTO 5 が特に関与するという仮説が支持されている。

結 論

社会的相互作用への参加という社会的経験と、道徳判断の発達レベルとの関連を、様々な角度から分析したところ、はじめの仮説通り、全体的に発達レベルが高い者ほど参加が多いことが示され、しかも、ステージにより役割取得の機会の特定のものが特に関連することが示された。したがって役割取得の機会をステージに対応して分けることの有効性が示されたと言える。

さらに一方的に社会的視点を提示されるマスコミとの接触といったものより、具体的人間に関連し、葛藤する様々な視点を含むと思われる社会的相互作用が、特に道徳判断の発達と関連することが見いだされた。また、集団活動など、ある段階には関連するが、それを越えるとかえって妨げになるかもしれない活動があり得ることが示唆された。

より個別的、具体的に、どのような社会的相互作用が関与しているかは、おそらくサンプルにより複雑に異なっているものと思われる。本研究ではそこまで立入っては扱わず、一般的、原則的に、道徳判断の発達と理論的に関連するはずの役割取得の機会のタイプを検討し、事実、関連が見られることを実証した。

引 用 文 献

- Bereiter, C. 1968 Educational implication of Kohlberg's cognitive developmental view. *Interchange*, 1, 25-32.
- Garbanino, J., & Bronfenbrenner, U. 1976 The socialization of moral judgement and behavior in cross-cultural perspective. In T. Lickona, (Ed.) *Moral development and behavior*. New York: Holt, Rinehart and Winston. Pp. 70-83.
- 波多野 誼余夫・無藤 隆 1974 精神発達の社会化 齊藤耕二・菊地章夫(編) 社会化の心理学 川島書店 Pp. 17-29.
- Holstein, C. B. 1968 Parental determinants of the development of moral judgement. Unpublished doctoral dissertation, University of California. (Kohlberg, L. 1969 Stage and sequence: The cognitive developmental approach to socialization. In D. A. Goslin (Ed.), *Handbook of socialization theory and research*. Chicago: Rand McNally. Pp. 347-480).
- Keasey, C. B. 1971 Social participation as a factor in the moral development of preadolescents.

- Developmental Psychology*, 5, 216-220.
- Kohlberg, L. 1964 Development of moral character and ideology. In M. L. Hoffman, & L. W. Hoffman. (Eds.), *Review of child development research*, Vol. 1, New York: Russel Sage Foundation. Pp. 383-423.
- Kohlberg, L. 1969 Stage and sequence: The cognitive developmental approach to socialization. In D. A. Goslin (Ed.), *Handbook of socialization theory and research*. Chicago; Rand McNally. Pp. 347-480.
- 内藤俊史 1977 Kohlberg の道徳性発達論 教育心理学研究, 25, 60-67.
- Piaget, J. 1932 The moral judgement of the child. London: Routledge & Kegan Paul (大伴茂訳 児童の道徳判断の発達 同文書院)
- Rest, J., Cooper R., Codor, R., Masanz, J., & Anderson D. 1974 Judging the important issues in moral dilemmas: An objective measure of development. *Developmental Psychology*, 10 491-501.
- Shantz, C. U. 1975 The development of social cognition. In E. M. Hethenington (Ed.), *Review of child development research*. Vol. 5. The University of Chicago Press. Pp. 257-323.
- 芝 祐順 1977 語彙検査の尺度化とプログラムテストの試み 教育心理学年報, 17, 105-107.
- Turiel, E. 1976 A comparative analysis of moral knowledge and moral judgement in males and females. *Journal of Personality*, 44, 195-208.
- 山岸明子 1977 道徳判断に関する Kohlberg の理論とその発展 心理学評論, 20, 348-368.

—1979. 5. 10. 受稿—

SUMMARY

The purpose of the present study was to examine the relationship between the development of moral judgement and the social interaction through the extent of experiences with role-taking opportunities (RTO) corresponding to the various stages of moral development as defined in Kohlberg's theory. What kinds of social interactions and RTO do subjects in each stage experience? How possibly do these variables discriminate students in Stages 3, 4 and 5?

The Japanese edition of Difinig Issues Test, RTO questionnaire, and a vocabulary test were administered to 110 senior high school students and 146 college students. Thirty-one, 58, and 88 students in Stages 3, 4, and 5 respectively were selected by the DIT score. The RTO questionnaire assessed qualities and quantities of interactions with other people, group activities, voluntary social activities, contacts with mass media, and contacts with books. From these the scores of role-taking opportunities corresponding to the three moral stages were assigned to each variable. The correlation between the vocabulary test score and the moral judgement level was low.

Results were as follows: The higher a student's moral stage was, the more social interaction experiences he has had.

Discrimination of the stages using the social interaction variables was a moderate success; they were discriminated correctly for 61 percent of the students.

Overall RTO scores showed that Stage 4 students have had more RT 4 opportunities (which correspond to Stage 4) than Stage 3 students, and that Stage 5 students have had more RT 3 and RT 5 opportunities than Stage 4 students, thus supporting the hypothesis of correspondence between moral stages and RTO.

From analyses of social interactions correlated with stages, it was found that interactions with concrete human figures which may involve conflicting viewpoints, rather than contacts with mass media which unilaterally present social viewpoints, greatly contribute to the development of moral judgement. It was further suggested that there are activities such as a group activity which may contribute to a certain stage but may inhibit moving to an upper stage.